

「スクール・フォー・アフリカ」 2015年度 ブルキナファソ活動報告

「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム スクール・フォー・アフリカ」を通じた日本の皆さまからのご寄付は、ブルキナファソの子どもたちの教育支援のために大切に活用されています。

対象地域：ブルキナファソのガンズルグ州、ナメンテンガ州、サヘル地方
612校の子ども138,855人(女子66,718人/男子72,137人)

同プログラムにご参加いただく日本のご支援者さまの人数が増えたことで、教育支援の対象地域を拡大することにつながり、2015年よりブルキナファソでも特に子どもたちの就学状況が遅れている北部のサヘル地方への支援を開始することができました。



学習環境を整える

- 3校において7つの教室と幼稚園、トイレを建設しました。同じ敷地内に幼稚園・小学校・中学校または職業訓練校を設置したモデル校は、ブルキナファソで初の一貫校として評価されています。



新しい校舎と屋外に作られた男女別のトイレと手洗い場



- 50校に図書や体育、学校菜園の道具を提供するとともに、計401人の教師へ研修を実施しました。
- 1,200校で学校衛生を促進し、またエボラ予防のための手洗いを普及する目的から、5,000台の手洗い器を配布しました。



国際協力機構（JICA）と連携し、ユニセフが配布した手洗い器を使って、青年海外協力隊員が子どもたちに手洗いやエボラ予防方法を教えました。

- 186校において子どもたち自身で決めたテーマによる学校クラブ（菜園クラブや勉強クラブ、衛生クラブ等）を新たに設置し、約800人の子どもがクラブ活動に参加しました。

「スクール・フォー・アフリカ」活動報告会を開催しました



© 日本ユニセフ協会

ユニセフのブルキナファソ事務所でプログラムチーフとして教育支援を指揮している渋谷朋子氏を迎え、2016年1月に支援者の皆さまを対象に2015年度のブルキナファソでの支援について、ユニセフハウス（東京都港区）にて報告会を開催しました。報告会の模様は当協会ホームページ上の動画でご覧いただけます。報告会では、本レポートではご紹介しきれなかった学校に通っている子どもたちの様子や、教師、ブルキナファソ事務所のスタッフからのメッセージ動画もございます。また、報告会では3つのクイズも出題されており、クイズに挑戦しながら、ぜひ、報告会の動画をご覧ください。

URL <http://www.unicef.or.jp/event/report/20160113.html>

2016年 ユニセフ報告会 渋谷朋子 [検索](#)

渋谷朋子氏プロフィール

東京都出身。99年に青年海外協力隊員としてガーナの学校に派遣されて以後、16年間にわたりアフリカの教育開発に携わる。ユニセフにはブルンジ事務所に教育担当官（2005年～2007年）として赴任して以来、モザンビーク事務所教育専門官（2007～2011年）、ギニアビサウ事務所教育プログラム・チーフ（2011年～2014年）を経て、現職に至る。

教育の質を向上する

- 2015年より支援が始まったサヘル地方で、51校の小学校教師（830人）、幼稚園教諭（466人）、全国の教育視察官（3,651人）に子どもを中心とした参加型の教授法や子どもの権利、衛生・栄養教育などの「子どもにやさしい教育」の研修を実施しました。



これまでは、教師が黒板に書いたものを、読み上げたものを生徒が書き写すという授業形態が主流でした。ユニセフの支援により教師が研修を受けたことで、子どもを中心とした参加型授業への改善が進められています。

- 97人の教師へ障がい児教育の研修を開催しました。障がい児教育が未発達なブルキナファソでは、教師が初めて障がいを持った子どもに応じた教授法を学ぶ機会となりました。



ブルキナファソでは、障がい児の4人にひとりしか学校に通っていません。障がい児教育の研修では、教師が手を縛り、手に制限がある状態で字を書くことがどれくらい大変かを体験することから始めました。写真は、車いすで初めてバスケットボールをする障がいのある子どもたち。

- 15,000人の生徒に夕方以降も自宅勉強できるように太陽光発電式ライトを提供し、10,000人の生徒(特に女子)に筆記用具やノートなどの文房具を配布しました。



ブルキナファソの農村部の多くの家庭では電気が通っていないため、子どもたちに太陽光発電式ライトを配布することで、暗くなった後でも子どもたちが自宅勉強できるようになりました。

地域の人々の参加を強化する

- 10,000人以上の地域住民が教育（特に女子や障がい児などこれまで教育を受けられなかった子どもの教育）の大切さを訴える啓発活動に参加しました。
- 200人の乳幼児の親を対象に、栄養、保健衛生、保護、育児についての研修を実施し、研修に参加した親は地元で乳幼児の保護者に指導を行いました。



乳幼児の保護者を対象とした研修では、保護者の識字率が低いため、わかりやすく伝えられるように、紙芝居を使って行われました。

- 子どもの保護者の識字率が低いため、5,420人の地域住民へ識字教室を開催しました。

- 151校の学校運営委員会と母姉会が収入創出活動を開始するための資金を提供しました。

「ユニセフと日本の皆さまのお陰で、この地域住民は収入創出活動の指導と250,000CFAフラン（約5万円）を受けられました。その資金は50人の女性に貸され、その利子は既に教室のドアの修理や生徒の椅子作りに使われています。本当にありがとうございます！」



デベレ・タラタ小学校 学校運営委員長
マイム・マイガさん

収入創出活動は国際協力機構（JICA）との技術連携を通して行いました。学校運営委員会はメンバーの女性たちにお金を分配し、メンバーはそのお金を元に家畜を飼育するなどの小さなビジネスを行います。売上から借りたお金の利子を委員会に納め、積立金は学校の運営のために活用されています。

- 女子教育の促進のために、271人の女子中学生へ奨学金と500人の遠方から通学する女子生徒へ自転車を提供しました。

- 1,200人の障がい児への教育支援、正規の教育の機会を逃した1,800人以上の子どもへ識字教育や短期集中授業、職業訓練の支援を行いました。